

ネパール帰国での出会い

最近ネパール帰国の機会が多く、この3月も10日間の予定で帰国した。

いつものルート、中国東方航空で上海に行き一泊、翌日昆明経由でネパールへ向かうはずだった。日本出発前にカトマンズのトリブバン国際空港でトルコ航空機が着陸に失敗して滑走路から動かせなくなっていると聞いていた。人的被害はないとも聞いていたので心配はしていなかった。しかし昆明でネパールへ向け飛べないことが分かり、急きょホテル待機となった。

ネパールには国際空港が一つしかなく、また国際便の滑走路も一本しかないため、何らかのトラブルがあると、離着陸ができなくなり、空港が閉鎖されてしまう。ネパールは山国でカトマンズは盆地であるため、飛行機の離着陸には神経を使う。以前は空港への誘導や航空機を感知するレーダーがなく、タイ航空やパキスタン航空の重大事故があった。タイ航空の場合は人為的ミスもあったようだが。その後、日本の援助でレーダーが設置された。

しかし今回はまったくの人為的ミスであった。事故機の移動にはネパール側の処理能力に限界があり、インドに応援を要請、手間取ってしまったようだった。

いつ出発できるか分からないため、滞在はホテル周辺に限られた。ホテルは航空会社持ちで、6月からJICAを通じセネガルに農業指導に行く予定の日本人と相部屋になった。結局このホテルには丸2日間いる羽目になった。ホテルはネパール行きを待つ外国人でいっぱいになった。普段は話すこともない見知らぬ人々でも同じ境遇、同じ場所にいると妙な連帯感と親しみが湧いてくる。たくさんの方々と知り合いになった。ホテルではやることがないので、それぞれが同室になった人と話したり、ロビーに下りて別室の人と話したり、トランプをしたりで時間を潰していた。非常時のためか、仲間同士何らかの行き違いで言い

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン
理事長 マナンダール マダーブ ナラエン

争いになっている人たちもあった。でも皆の共通の話題はネパールのこと、これから向かうネパールへ想いを馳せていた。いつ出発の連絡が来るか分からないので、絶えずスタンバイで落ち着かず、ちょっとした緊張感が皆をお喋りにしていた。

同室の日本人はセネガルへ行く前に知り合いのネパール人に会いに行くとのことだった。ミランクラブのことを話したところ、興味を持ってくれ、是非ダルマスタリ学校も訪れてみたいと話された。

ロビーで知り合ったフランス人はネパール農村の教育に関するドキュメンタリーを作りたいと話していた。ミランクラブに興味を持ってくれたのでホームページを紹介した。ホームページは日本語であることに後で気付いた。

ネパールに初めて行く日本からの若者3人は、それぞれが両親のどちらかがイギリス人、アメリカ人で、日本の学校も外国の学校も経験していた。ミランクラブの活動に興味を持って聞いてくれた。

食事は3食ホテル前のレストランで無料で食べられたが、時間に遅れていくと、もうなかつたりしていた。

3日目の夜中に起こされ出発が決まった時は、皆がバスに殺到し大混乱になった。平常時トリブバン空港では夜中の離着陸はしていないが、その時ばかりは24時間体制で3日間、世界中からの航空機を捌いたようだ。トリブバン空港は旅客の荷物で足の踏み場がないほど溢れ返っていた。それでも到着すれば良しで、案の定、私の荷物は翌日となった。

こんなことは滅多に起こるものではないが、やはりネパールは遠い国なのだと再認識した。

ネパールでは今、ポカラやルンビニに国際空港を作る計画をしている。またカトマンズの約100km近くのニズガディにも検討している。